年次報告書

（ホームページ掲載版）

2020 年度活動報告

2021 年度活動計画

2021 年 4 月

特定非営利活動法人

サヘルの森

〈 目 次 〉

はじめに・・・ 1

2020 年度現地活動報告・・・ 2

2021 年度現地活動計画（2021 年１月～12 月）・・・ 8

国内活動－2020 年度活動報告・2021 年度活動計画・・・ 10

運営委員・監事名簿（2021～2022 年）・・・ 15

活動地地図・写真・・・ 16

＜表紙の写真＞
植えて２年目のユーカリの学校林
（ファナ地域・ラミニブグー小学校）
＜裏表紙の写真＞
果樹のスンスンの苗木を抱える女性

はじめに

地球上の人々は、それぞれの国・地域の歴史、文化のもとで暮らしており、生活事情も様々です。コロナ禍の中では経済格差、差別等の問題を抱えて、困窮のために生存さえ脅かされているということもあるようです。

現在活動を進めているマリ共和国では、厳しい自然環境に加え、村々の薪炭採取地の劣化、遊牧民の家畜放牧空間の減少、経済活動の偏り等により、村どうしや民族間のあつれき、衝突も聞かれています。

人々の生活の安定化、不安の解消は、なかなか実現が難しい現状ですが、少しずつでもよりよい環境が出来ることを期待して活動したいと思います。

目的

当会は、西アフリカの内陸にあるマリ共和国で、サヘル地域の砂漠化を防止して、そこの住む人々が安定した生活を築けるように協力することを目的として、1987 年に発足しました。サヘルに生きる人々の暮らしが根付けば砂漠が芽吹くと考えています。

2020 年のマリ共和国

新型コロナウイルスの世界的な感染拡大で、日本人を派遣しての活動は出来ませんでしたが、マリ人スタッフが活動を担いました。

マリは、長い乾期のある厳しい自然環境と低い農業生産性から一人当たりの総収入（GNI）は 880 ドルで、2.4 ドル／日の生活です（2019 年、世界銀行）。農村部の村人の収入はさらに低い状態にあります。

当会の活動は、村人の生活環境の改善や村人自身による地域の活性化を推し進め、持続的な生産の継続、緑の育成と循環利用につながり、ひいては砂漠化防止に貢献すると考えています。

マリの農村地域で村の周辺に広がる樹木の生育する里山は、日常の薪炭や林産物を採取でき、生活の大きな支えとなっています。この里山が薪炭需要の増大、持続性のない開発、地方分権化による土地使用権の分譲などにより、樹林の疲弊が拡大しつつあります。

樹林は伐採されると、萌芽して再生するものも多いのですが、再び薪炭等に利用できる大きさになる前に切られて、草地や裸地になる場所もあります。この地に自生するバオバブの葉は、毎日食べるソースの材料として欠かせません。村人の自給を高める多様な活動は、不安定な厳しい環境の中で暮らしを支えるために不可欠です。伝統的な自然利用の技術、知恵にも学ぶことはたくさんあります。

経済的な収入につながる緑づくりの支援とともに、村人同士が支え合い、助け合いながら、持続的な緑の資源管理、緑の公共財づくり、技術の普及、協働作業等で、生活の向上・村人の参加が目指せるように協力していきます。

2020 年度現地活動報告

2020 年は、新型コロナウイルスのパンデミックにより世界的にも大きなダメージを受けました。マリでも 3 月に初めての感染を確認して以来、2 月 20 日までに 8,292 名の感染者、279 名の死者を数えています。当初はぜい弱な医療体制により感染の拡大が懸念されていましたが、春と冬の非常事態宣言による、学校の閉鎖、イベント・集会の中止、冠婚葬祭を含むイベントの人数制限などの対策により、欧米諸国ほどの大きな感染拡大は起こっていません。しかし、隣国セネガルでも変異種が確認されるなど、感染状況を今後も注視していかなければなりません。

一方で、今春、ケイタ政権の不正や失政に抗議するデモが多発し、それに後押しされるかのように、8 月にマリ国軍の一部将校が武装蜂起し、ケイタ大統領をはじめとする政府要人を拘束しました。その後、ケイタ大統領は自身の辞任、内閣総辞職及び国民議会解散を表明しました。続いて、反乱軍指導者のゴイタ大佐が「国民救済委員会（CNSP)」の委員長に就任し、権力を掌握しました。

その後、西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）調停団との協議を経て、同年 9 月にンダオ暫定大統領（元国防相）が就任し、同年 10 月にワンヌ暫定首相（元外相）率いる暫定内閣が発足しました。暫定政権は、民政移管に向けたロードマップに従い、18 か月以内に大統領選挙及び国民議会選挙を実施する準備を進めています。

こうした政治的な混乱を背景に、マリ北部や中部において、武装集団による治安部隊基地への襲撃や衝突も増加しています。一時期収まっていた、マリ中部の牧畜民と農耕民の衝突も再燃しており、混乱はさらに増しています。マリ国内情勢はまだまだ安定しませんが、今後も感染状況や治安状況を把握したうえで、比較的安全なマリ南部での活動を進めていきます。

2020 年度のマリでの現地活動は、マリ南部の 3 地域（ファナ、バマコ北部、バマコ南部）において行いました。日本人の派遣は計 2 回（5～7 月、8～10 月）を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため実現せず、マリ人スタッフを現場に派遣し活動を進めました。雨期（5～9 月）前より植樹の準備（育苗、柵設置、植穴掘り）を行い、雨期を中心に苗木配布や学校林の育成、里山再生の実践などを行いました。乾期（1～5 月、10～12 月）には新試験地の設置・植樹・在来樹の播種、配布苗の生育状況の確認、学校林の保護柵補修、里山再生実践の準備（種子採収・育苗）等を行いました。

計画では、**「村人の菜園や学校の緑づくりで緑の拠点創出に寄与すると共に、これまでの研修実践者、地域苗畑主とともに里山再生に取り組む」**ことを目標とし、以下のような活動内容で進めていこうとしていました。

・苗木配布で緑の拠点づくり支援と緑化人材育成
・里山再生の実践を進める
・荒廃地・原野の回復の技術開発試験を実施する
・緑の拠点としての学校林の樹木育成を進める
・日本人スタッフを派遣する

以下、項目別に活動を報告します。

①苗木配布で緑の拠点づくり支援と緑化人材育成

（１）苗木配布と植林ワークショップ

2020 年は 6~9 月の雨期にマリ人スタッフが各地域で村々を回って苗木配布を行いました。苗木の配布本数は、3 地域合計 43 ヵ所 9,630 本となりました（9 ページ、表 2 参照）。

日本人の派遣ができなかったため、配布した村の数も苗木の本数も例年に比べると少なくなりましたが、久しぶりに訪れた村で育った木を見せてもらうなど、様々な村で着実に木が育っていることを実感しています。

配布苗は、昨年より育成しているバマコの事務所の苗とそれぞれの地域苗畑から購入した苗を使用しています。また、配布苗の約 3 分の 1 は、育ってきた里山再生実践者が育成した苗木の余剰分を買い取って使用しています。

実践者が苗木配布を手伝う

表１　購入先苗畑

地域	苗畑名
バマコ北部（1 ヵ所）	カマカ
バマコ南部（2 ヵ所）	バコジゴロニ、サナンコロバ
ファナ（10 ヵ所）	ファナ 2、ファナ 3、ウォロド 2、タンバブグー、ジェニナ 1、(以上、地域苗畑)、カソマブグー1、カソマブグー3、ジェバ 1、ジェバ 2、ウェラクラ 1（以上、実践者苗畑）

（２）生育状況の確認（フォローアップ）

2020 年は日本人が派遣できない分、後述するように過去に苗木配布した村や学校林を育成した村を久しぶりに訪れて、過去の配布苗や学校林の樹木の生育状況を確認してもらいました。数年前に訪れた村で案内される木が大きく育っているのを見ると、植えた彼らも、配布した私たちも、共に励みになります。

マリ人スタッフにもできる限り配布苗の生育状況を確認して、写真を撮ってくれるように頼んでいるので、今後も育った木々をできるだけ皆さんにも見ていただこうと思います。

写真 1-01：実がなった在来種のザバン
1-02：菜園に植えたバオバブ
《Bn：ｻﾞﾝﾌﾞｸﾞｰ》
Bn:ﾊﾞﾏｺ北、Bs:ﾊﾞﾏｺ南、Fn：ﾌｧﾅ

写真　1-03：耕作畑のバオバブ《Bn：ｳｧｿﾛﾗ》
1-04：菜園のプロソピス《Bn：ﾄﾞｩﾗｺ》
1-05：敷地内のマンゴー《Fn:ﾏﾅｺﾛ》
1-06：敷地のｱｶｼｱ･ﾏﾝｷﾞｳﾑ《Fn：ﾝｺﾞﾛﾝｺﾞｼﾞ》
1-07：敷地内のエタージュ《Bs：ﾌｧﾗﾀﾞﾝ》
1-08：敷地脇のバオバブ《Bn：ﾄﾞｩｸﾗ》
1-09：菜園のスンスン《Bn：ﾄﾞｩｸﾗ》
1-10：耕作畑のバオバブ《Bs：ｾﾍﾞﾗｺﾛ》

②里山再生の実践を進める

ファナ地域で高い技術を誇る地域苗畑主のもとで、里山再生に必要な技術を学んだ 9 カ村 27 名の実践者たちのうち、家庭の事情などで休止している者を除いた、20 名が継続して、里山再生に取り組んでいます。

研修後、長い者で 5 年、短い者で 2 年、それぞれの土地で、育苗や樹木・果樹の育成、土地の保全等に取り組んでいます。最近は、家畜の食害からいかに木々を守るかが大事だと柵を作り植林をしたり、初期生育が良いと雨期の前に木を植えて準備をしておいたりと様々な工夫をしています。また、機関誌でも紹介しましたが、始めたころはなかなか育苗もうまくいかず、植えてもなかなか手入れをせずにうまく育てられずにいた実践者が、やっと着実に育った樹を目の当たりにしたり、材が販売できるようになったりすることで、やる気を出して、その後本腰を入れるようになりました。こうした変化も、継続してフォローしているから分かることで、頼もしい限りです。

雨期の前に木を植えておく

自身で育てた苗木を大量に植樹

また、実践者を育成していく過程で期待しているのが、こうした技術を持つ人たちの間の交流です。研修時には地域苗畑主と実践者間の交流を築きましたが、その交流は実践者間にも広がっています。実践者の中には、マリ人スタッフが他の実践者を訪れる際に同行し、技術交流や意見交換をしています。こうした交流と共に、今度は実践者から村人たちへの広がりを進めていき、地域の里山再生につなげていければと考えています。

地域苗畑主の苗畑を訪ねる

③荒廃地・原野の回復の技術開発試験を実施する

（1）荒廃地植林

ファナ地域のニヤマトブグー村に近い幹線道路沿いで 10 年以上にわたり行ってきた植生回復試験は、地方分権の流れで土地が売却され使用できなくなり、隣村のカソマブグー村に場所を移し、新たに試験地を設けました。

カソマブグーの試験地は、過去の耕作で裸地化した放棄畑で、降った雨水も浸透せずに流れてしまう土地です。まずは草も生えないこの裸地に、草木の束を配置して、土砂や有機物・草本の種子等を捕捉して、草本を誘致して、さらに雨水の浸透と土砂・有機物の捕捉を促しました。また雨期の前に、ユーカリや在来種のカイセドラなどを定植して、同時に樹木の育成も行いました。また、放棄畑の一部は傾斜しており、土壌の浸食が始まっており、ここに石組みや草本の束を施して、浸食を抑えるとともに、土砂・有機物の捕捉と植生の回復を試みました。

裸地に植生がよみがえると、その効果を目の当たりにして、どうすればこのように植生が回復するのかと非常に興味をもって訪ねてくる村人も出始めているようです。

設置した草木の束が植生を育む

石組みが土砂を留め、草が生えた

（2）有用樹の生育

薪炭材として最適ともいわれるチャンガラ（*Combretum spp.*）、油脂を採取できるカリテ（シアバターノキ、*Butyrospermum parkii.*）は、都市への薪炭供給のために枝葉が切り落とされ、残されている木々が疲弊しつつあります。また、これら在来種の苗木を生産し育てるという技術は確立されておらず、再生産が難しくなっています。

カソマブグー村の新試験地では、これらの在来種を直播して育成する試験を始めました。雨期に発芽し生長していて、今後はこの乾期を耐えしのげるかがカギとなっています。

直播して芽生えたカリテの実生

④緑の拠点としての学校林の樹木育成を進める

2020 年は日本人が派遣できなかったため、前年に育成した 8 校に加え、過去に育成した 5 校を含めた計 13 校において、新たな植栽やその後の管理を行いました。新型コロナウイルス感染拡大による学校の閉鎖もあり、思うように管理ができない時期もありましたが、学校林の植栽や管理を教師や「学校管理委員会」の保護者、生徒たちと協力して進めました。ある学校では、過去育成した学校林が大きく生長したものの枝葉が茂り、校庭での移動の妨げになったため、マリ人スタッフと共に保護者が協力して剪定を行いました。

保護者と生徒たちと保護柵を設置

張り過ぎた枝を剪定

⑤日本人の派遣

2020 年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、予定していた 5 月～7 月、8 月～10 月の 2 回の日本人派遣はできませんでした。

表２　2020 年の活動地域と活動内容一覧

活動地域	主な活動地（町村・学校等）	活動内容	配布本数 主な配布樹種
バマコ（首都）	バマコ事務所	苗畑：有用樹苗育成	在来種多数
クリコロ州 **バマコ北部** 配布：10ヵ所 苗畑：1ヵ所	ザンブグー、ドゥラコ ニアマナ小学校、ウァソロラ小学校、ンゴロンゴジ小学校、コジャン小学校（計4校）	苗木配布 学校林育成	２，１２０本 ユーカリ、バオバブ、エタージュ、アルヘンナ、マンゴー
クリコロ州 **バマコ南部** 配布：9ヵ所 苗畑：2ヵ所	バンドゥグ、ファラダン、タジャナ セベラコロ小学校、タンガラ小学校、マサコ小学校（計3校）	苗木配布 学校林育成	２，３１０本 ユーカリ、バオバブ、アルヘンナ、スンスン、カイセドラ
クリコロ州 **ファナ** 配布：24ヵ所 苗畑：10ヵ所	マドゥジャラブグー、ニアニナ カソマブグー、ニヤマトブグー、タンバブグー、ジェバ、ウェラクラ、グェンドゥ、ラジブグー、マナコロ、チチュア マナコロ小学校、ラミニブグー小学校、タンバブグー小学校、コラボ小学校、ボディゲンドゥ小学校、コジャニ小学校（計6校） カソマブグー（新規） モテル･デ･ムレン	苗木配布 里山再生研修と実践 学校林育成 荒廃地植林試験 見本林	５，２００本 ユーカリ、バオバブ、カシューナット、ノキ、スンスン、アルヘンナ、マンゴー
合計			**９，６３０本**

2021 年度現地活動計画（2021 年 1 月～12 月）

コロナ禍の終息は見通せませんが、引き続き出来ることで現地活動支援を続けます。国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs)を念頭に、活動していきたいと思います。緑を増やす活動は、再生可能な資源を創出するばかりでなく、気候変動対策や貧困・飢餓解消、教育環境の改善等さまざまな分野に関連しています。

2021 年度の活動方針は**「里山再生の技術研修を受けた村人や地域苗畑主が実施する里山再生活動に協力するとともに、緑を育成する村人のすそ野を広げる」**とします。

活動目標は次の 5 点です。

・技術研修を受けた村人の里山再生の実践に協力する
・苗木配布で村人の緑育成の波及と人材の発掘を継続する
・学校林の育成に協力する
・里山再生の試験と技術開発を実施する
・日本人の派遣

①技術研修を受けた村人の里山再生の実践に協力する

里山再生の実践とは、研修を受けた村人が、苗木の育苗、生垣育成、樹木・果樹の植樹・育成などを行うことです。里山再生につながる薪炭材育成やいろいろな有用樹を育てて利用できるようにする行動です。里山再生を実践する村人が自らの活動を行い、それぞれの地域・村の里山再生の核となるように協力します。

ユーカリと有用樹の林が育つ

②苗木配布で村人の緑育成の波及と人材の発掘を継続する

やる気のある村人を発掘する

村人への苗木配布とその後の緑の育成とその波及に協力します。苗木配布を受けた村人と里山再生の技術研修を受けた村人との交流を図り、やる気のある村人に地域苗畑の紹介、技術の普及等を行います。里山再生に興味のある村人を発掘し、広く技術・考え方を波及させていきます。

サヘルの森のスタッフは、研修を受けた村人や興味のある人々と共に育苗・植樹・維持管理等の活動を進めます。

③学校林の育成に協力する

村の学校はその規模や指導者の資質がいろいろです。苗木を渡すだけで、自分たちで保護柵を作り進められる学校もあれば、植えてもらうときは意欲があるようにみえても、その後の管理ができない学校もあります。何度も訪れて進める必要があります。

すでに植林を行った学校は、引き続き緑づくりの充実を図るために、苗木・資材供与、助言等を実施します。

新規学校では、校舎周辺の生垣づくり、校庭・空き地等への緑陰樹の植栽を図り、学校環境林の育成を進めます。

校庭に学校林を育成する

④里山再生の試験と技術開発を実施する（試験地・見本林を含む）

荒廃した里山の植生回復工法（在来種育成法、土砂流出防止工、土砂・有機物捕捉工、草本盛土工など）で里山再生の見本となる事例を創出して、村人への啓蒙を図ります。在来種の育成方法では、里山の多様性の回復を目指して、チャンガラ、カリテなどの直播・育成を試験します。果樹の育成方法では、管理を含めて里山における生産性・収益性の向上を試験します。一例として、場所を選んで柵のある群植地を作り、まとまった果樹づくりというようなことも試したいと思います。

⑤日本人スタッフの派遣

コロナ禍が収まり、マリで日本人の安全が確保されるという条件がありますが、派遣の準備をしておき、条件がクリアできた段階で派遣を行いたいと思います。2021 年２月下旬の時点では、日本でのワクチン接種の進捗状況から、６月～７月の派遣は難しいことが想定されます。その後の８月～10 月、2022 年 1～2 月の派遣を予定します。

表３　2021 年度のスタッフ派遣予定

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1
スタッフＡ									━	━			
スタッフＢ													━

⑥活動の実施体制

2021 年は日本人派遣が実施できないことも想定されますが、その際の現地活動は、2020 年のようにマリ人スタッフを村に派遣して活動を継続します。

国内活動－2020 年度活動報告・2021 年度活動計画

ミーティング・総会

＜会員総会＞

2020 年度の通常総会を書面評決で開催（4/12）

※新型コロナウイルス感染拡大の為、3/29 に JICA 地球ひろばで開催予定だった総会の日時・開催方法を変更しました。

＜運営委員会＞

1・2 月は町田市民文学館ことばらんどを利用し、その後 JCA－NET のウェブ会議サービスを利用して計 6 回開催

開催日：1/12（第 174 回）、2/16（175 回）、5/31（第 176 回）、7/25（第 177 回）、9/22（第 178 回）、12/5（第 179 回）

日本人スタッフ・ボランティアの派遣状況

＜2020 年度　派遣実施＞

新型コロナウイルス感染拡大のため、日本人技術者の派遣中止

＜2021 年度　派遣予定＞

スタッフ A　　（8 月頃～10 月頃）

スタッフ B　　（2021 年 1 月頃）

（9 ページ表 3「2021 年度のスタッフ派遣予定」参照）

＊マリ派遣に問題ないと判断された場合のみ派遣。

広報

＜機関誌「サヘル」他＞

第 106 号（6/23 発行）／ファナ特別号（10/28 発行）／ 第 107 号（12/18 発行）

イベント

＜2020 年度　参加イベント＞

残念ながら新型コロナウイルスの影響で例年参加しているイベントが中止または規模を縮小してのオンライン開催になりました。

・12/4～12/13　まちカフェ！１０days　（町田市：団体紹介冊子掲載での参加）

例年参加しているが、中止やオンライン開催のため不参加になったイベント

・5 月上旬　みどりとふれあうフェスティバル　（中止）

・9 月下旬　グローバルフェスタ 2020　（中止）

・10/17～10/25　第 27 回みなこいワールドフェスタ　（オンライン開催）

・11/7～11/8　ジャパンバードフェスティバル 2020　（オンライン開催）

2021 年も新型コロナウイルスの影響が懸念されますが、オンラインで開催されるイベントなどへの出展は積極的に挑戦してみたいと思います。オンラインの開催情報やオンラインイベントの参加方法などは、サヘルの森スタッフブログやホームページ、機関誌等でお知らせします。サヘルキャンプのような屋外で作業できるイベントの開催も検討したいと思います。

皆様からのアイディア提供も歓迎します。

機関誌サヘル

2020 年度は、機関誌は例年の年 2 回発行に加え、10 月に里山再生実践者の活動紹介を中心とした「ファナ特集号」をカラー印刷で発行しました。写真を多く掲載し、実践者たちがどのような取り組みを行っているか見ていただけるように心がけました。これまでは輪転機での印刷であったため、せっかくの現地の写真がつぶれてしまい、なかなか見づらかったことと思います。今後は予算の許す限り、外部に印刷を発注して、はっきりと写真が見ることのできる形をとっていきたいと思います。

機関誌でこのようなことが知りたい、こんな記事が読みたいなど、ご意見、ご参考があれば、事務局までご連絡ください。

◆サヘル 106 号　2020 年 6 月 23 日発行
・新型コロナウイルス禍とマリの支援体制 2020　坂場光雄
・マリ人スタッフの力、お借りします　榎本肇
・おもしろ在来種 vol.2　~ドゥクラ　榎本肇
・アフリカの伝統的な社会の中での平和と寛容　エル・ハッジ・マサンバ・ディウフ
・会員番号物語（その 16）　東日本大震災後 9 年の石巻から　岩渕淳二

◆ファナ特集号　2020 年 10 月 28 日発行

◆サヘル 107 号　2020 年 12 月 18 日発行
・サヘルの森の現場は何拾、何百の村！　小島通雅
・現地活動よもやま話　榎本肇
・おもしろ在来種 vol.3　~マリのカキ　坂場光雄
・会員番号物語（その 17）　会員番号５３９のあゆみ　飯塚眞利子
・スンバラ冒険譚と京都のマリ人学長　高津佳史　／　Club SAHEL 本格始動！

牛乳パック回収

2020 年度の牛乳パック回収は、浦島丘中学校で実施しました。パックの積込みには生徒さんたちにもお手伝いいただきありがとうございました。毎年行っている浦島丘中学校の資源委託回収式は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止となり、少し残念でした。回収した牛乳パックは古紙業者の（株）山田洋治商店に買い取っていただきました。

また、牛乳パックを用いて再生したトイレットペーパーも一部の皆さまに定期的にご購入いただいています。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

・浦島丘中学校（神奈川県横浜市）　2 月 17 日回収：290 キロ（2,871 円）

ホームページ・ブログ・Facebook

2019 年から不具合が発生し更新が滞っていたホームページが復活しました（2021 年 1 月）。現在、ホームページ・ブログ・Facebook と、三通りの方法で活動の報告やイベント告知をしています。日本人派遣ができなかったので、トラオレさんの現地活動をブログで紹介しています。画像の提供頻度の都合で頻繁には更新できませんが、写真付きで紹介していますので是非ご覧ください。ブログの「トップページ→カテゴリ→マリ現地レポート」で閲覧可能です。坂場代表の植物コラムも不定期に更新しています（カテゴリ：木のお話）。

掲載ご希望の記事などありましたら、事務局までご連絡ください。森林やアフリカ関係の記事でしたらブログや Facebook に掲載可能です。

Club SAHEL

サヘルの森の活動を紹介するメーリングリスト「Club SAHEL」は、2014 年に運用を開始したものの休止状態でした。2020 年から運用が再開され、現在ではバオバブやモリンガの日本での育て方などについて意見交換が行われています。

Club SAHEL は、会員や協力者の皆さまとスタッフが気軽に情報交換できる場です。特に、バオバブを過去にイベント等で購入してくださった方やモリンガ等、マリで植えている植物の育て方がわからない・これから育ててみたいという方には必見です（ご希望があれば送料等経費は頂戴しますが種をお分けすることもできます）。

スタッフからの発信だけではなく、参加者の皆さまからの生育状況の投稿や質問も歓迎します。他に、毎月の活動や、事務局からのお知らせなど、最新の話題も提供します。

★登録方法★

1．サヘルの森事務局（下記アドレス）あてに、件名：【Club SAHEL 登録】でメールを送る。

　　メール送り先→（sahel-no-mori@jca.apc.org）

2．「Google グループ：Club SAHEL に追加されました」という登録完了メールが届く。

3．登録完了

サヘル定例活動とサヘルキャンプ

＜2020 年度のサヘル定例活動報告＞

定例活動の目的は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などです。現場を見て歩くことにより、現在の自然や町並みを楽しみ、歴史・文化の積み重ねなどを学んでいます。

2020 年は 1 月、2 月、9 月に 3 回の開催でした。2 月から新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、4 月には緊急事態宣言が出され、5 月下旬で解除されました。天候不順もあり、3 月から 7 月は活動を中止しました。9 月にはコロナ禍が収まったかなと考え実施しました。その後は再びウイルス感染者の増加が報道され、活動を中止しました。

思うような活動が出来ない 1 年でした。定例活動の様子は、一部をスタッフブログで画像付きで紹介しております。「サヘルスタッフブログ（カテゴリ：定例活動）」で検索してご覧ください。

2020 年度　サヘル定例活動の場所

1/18 港七福神、2/15 多摩の桜ヶ丘公園と八坂神社、9/19 赤塚公園、浄蓮寺の東京大仏

弁財天のある宝珠院（1 月）

八坂神社のスダジイ（2 月）

浄蓮寺の大仏（9 月）

＜2020 年のサヘルキャンプ＞

開催にあたって準備の打ち合わせも行いましたが、新型コロナウイルスの急激な感染拡大で 11 月 21 日の開催日直前に中止としました。

準備にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

＜2021 年度のサヘル定例活動計画＞

定例活動は、国内での会員交流、技術研修、人材育成などを目的として行っています。コロナ禍の状況にも依りますが、密を避け、緑を中心とした地域への訪問で、楽しみながら、学んでいきたいと思います。昨年度出かけられなかった場所を中心に計画します。

期日は毎月第 3 土曜日中心に開催しますが、変更になることもありますので、確認してご参加ください。参加費は無料です。別途施設の入場料金などがかかることがあります。楽に歩けるような身支度、飲用水、昼食持参をして、ご参加ください。

2021 年度定例活動日程表

期日	場所	集合場所	備考
1/16(土)	雑司ヶ谷七福神	JR 山手線「目白」駅改札 10:30	池袋の南東にある雑司ヶ谷を巡ります
2/20(土)	辰巳の森海浜公園と洲崎神社	東京メトロ有楽町線「辰巳」駅改札 10:30	東京湾の埋立地の緑地と江戸時代からの神社を巡ります
3/20(土)	野沢稲荷と世田谷公園	東急田園都市線「駒沢大学」駅改札 10:30	世田谷の野沢、下馬、池尻あたりを歩きます
4/17(土)	滝山城跡と少林寺	JR 中央線「八王子」駅改札 10:30	新緑の滝山丘陵を歩きます
5/15(土)	亀井戸水神、大正民家園と荒川堤防	JR 総武線「亀戸」駅北口改札 10:30	江戸川・墨田区の旧中川、荒川と水に関する神社巡り
6/19(土)	庭園美術館、港区郷土歴史館	JR 山手線「目黒」駅中央改札 10:30	昭和初期の建物と庭園などを巡ります

7/17(土)	日野ふるさと歴史館と黒川清流公園	JR 中央線「日野」駅改札 10:30	日野の歴史を学び、黒川段丘崖線の緑地を歩きます
9/18(土)	平林寺と歴史民俗資料館	JR 武蔵野線「新座」駅改札 10：30	武蔵野の平林寺と地域の歴史民俗を学びます
10/16(土)	区立美術の森と中村かしわ公園	西武池袋線「中村橋」駅改札 10:30	美術館の庭にあるモニュメントと防災公園を歩きます
11/20(土)	サヘルキャンプ	相鉄線「瀬谷」駅改札 10:00	身体を動かし、体験学習と食事を楽しみます
12/18(土)	さくらの美術館とめぐろ歴史資料館	東急東横線「祐天寺」駅中央改札 10:30	さくらの絵画を楽しみ、目黒辺りの歴史を学びます
2022 年 1/15(土)	荏原七福神	JR 京浜東北線「大井町」駅中央改札口 10:30	品川区南部の荏原辺りを歩きます
2/19(土)	和田堀公園と善福寺緑地	京王井の頭線「西永福」駅改札 10:30	武蔵野台地を蛇行して流れる善福寺川を歩きます
3/19(土)	片倉城跡公園と小比企丘陵	京王線「京王片倉」駅改札 10:30	八王子南部の城跡と丘陵地を歩きます

＜2021 年度のサヘルキャンプ＞

会員交流、自然観察、技術研修等を目的として実施しています。海外協力やボランティア、緑づくりの活動に関心のある人との交流などに取り組みたいと思います。マリ料理と草木染体験、たき火、竹細工などで楽しみ学びます。

期日：　2021 年 11 月 20 日（土）　　場所：瀬谷作業場など
集合：　相鉄線「瀬谷」駅 10：00
持ち物：　長袖シャツ、帽子、飲用水、手袋、タオルなど
費用：　バス代（400 円）＋参加費（中学生以上 1500 円）
※参加費には昼食代（マリ料理）や保険料を含みます。
（未就学児無料、小学生 500 円）

＊定例活動、サヘルキャンプへ参加希望の方は、変更になることもありますので、事前にサヘルの森までご連絡ください。定例活動の緊急連絡は電話でお願いします。
TEL:042-721-1601　FAX:042-721-1704　メール：sahel-no-mori@jca.apc.org

運営委員・監事名簿（2021～2022 年）

代 表	高津 佳史	自営
運営委員	上田 隆	団体職員
	榎本 肇	自営（事務局長）
	工藤 義治	団体職員
	久保 隆一郎	会社役員（神奈川支部）
	高津 佳史	自営（千葉支部）
	坂場 光雄	自営
	島岡 てるみ	主婦（関西支部）
	戸本 喜文	会社員（静岡支部）
監 事	赤塚 秀子	主婦
	宮代 裕子	自営

長年代表を務めてくださった坂場光雄さんは代表を辞任し、事務局長であった高津佳史さんが新「代表」に就任しました。新「事務局長」には運営委員の榎本肇さんが就任しました。

また、監事の大沼こずゑさんは任期満了に伴い辞任し、新「監事」として赤塚秀子さんが就任しました。大沼さん長年ありがとうございました。

任期は2021年4月～2023年4月の2年間です。

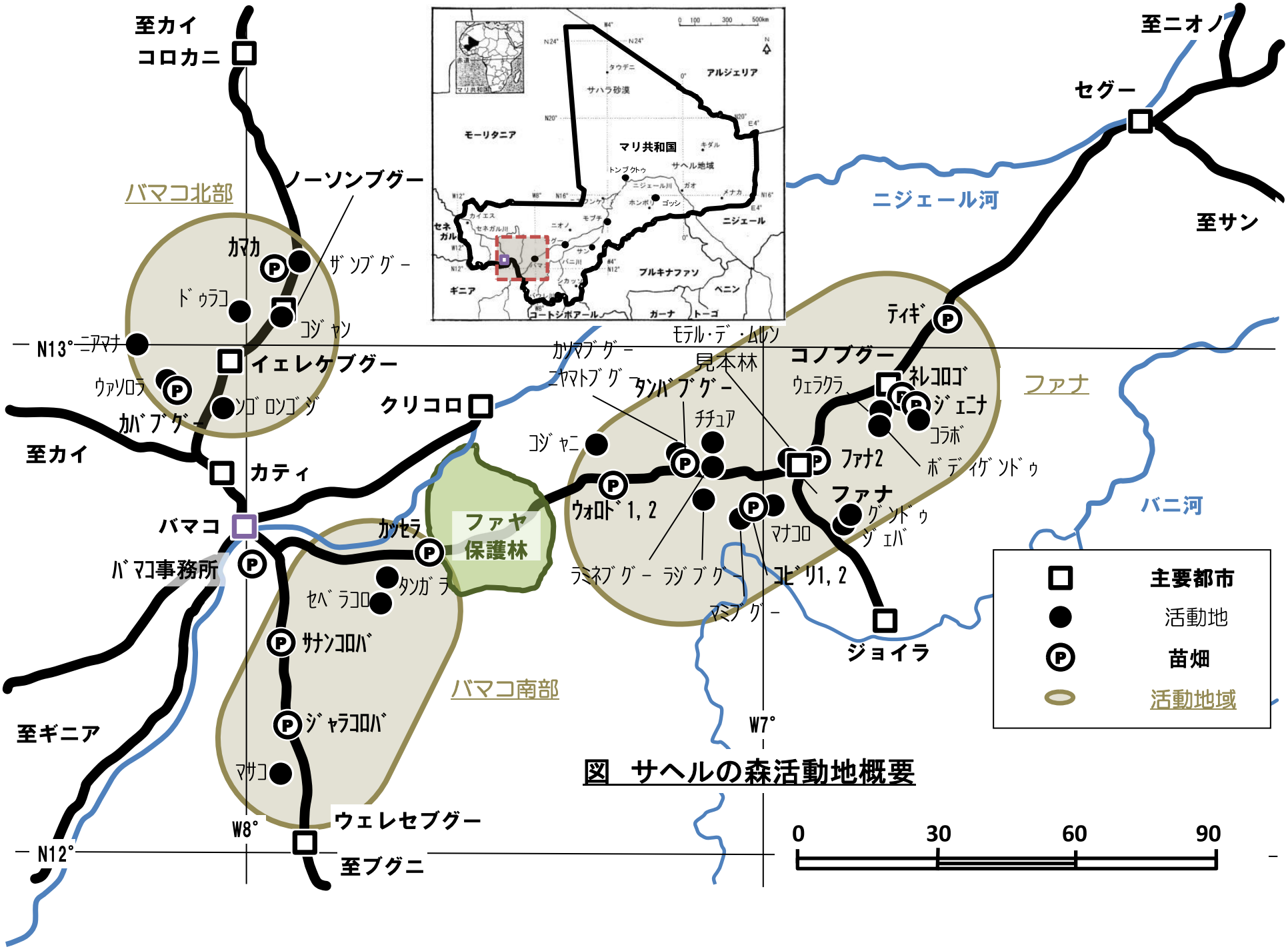

図　サヘルの森活動地概要

サヘルのひとこま　～マリ人スタッフが切り取ったマリの生活

写真 2-01：学校林の水やりはみんなで
2-02：残り物のご飯をおやつに食べています
2-03：マリ製のマスクはいかが？
2-04：日除け小屋の壁を編んでいます
2-05：日干しレンガ作りは乾期の仕事です
2-06：油作りの準備でカリテの実の殻を取ります
2-07：NGO の援助で井戸ができます
2-08：綿花の積込みは村の若者総出です

特定非営利活動法人　サヘルの森

〒194-0013　東京都町田市原町田 1-2-3
アーベイン平本 403
TEL：042-721-1601　FAX：042-721-1704
（不在の時は留守番電話に伝言お願いします）

HP：http://www.jca.apc.org/sahel-no-mori/
E-mail：sahel-no-mori@jca.apc.org